

町田市南第1高齢者支援センター ニュースレター

2020年12月 & 2021年1月号

偶数月発行

感染症に強い地域をつくる

緊急事態宣言中どのようなことに困りましたか？



国内での新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、早一年が経過しようとしています。各地で新規感染者数が過去最多を更新するなど、11月以降、感染拡大のペースが速くなっており、流行の第3波とも言われています。流行が長期化する中で、感染の第2波と比べると、重症化するリスクが高い高齢者の割合が増える傾向が見られているほか、クラスターが様々な場所で発生しており、不安な毎日をお過ごしの方も多いかと思います。

南第1高齢者支援センターでは10月21日に、この未曾有の事態で地域の医療と福祉を支えている医療機関とケアマネジャー事業所をオンラインでつなぎ、緊急事態宣言時の状況や今の課題などを情報共有・意見交換を行いました。

南町田病院

退院支援看護師
医療ソーシャルワーカー

町田慶泉病院

看護部長
地域連携部長



- ・マスクや防護服の不足
- ・限られた環境下で、ゾーニングを実施（時間帯、動線を区切るなど）
- ・疑いのある人は保健所に連絡の上、受診になっていたが、保健所に連絡が繋がらずに混乱も多かった。
- ・職員自身の健康維持
- ・面会制限のため、医療と介護、本人や家族との連絡・連携が出来ず不安
- ・空気感染するのではないかなど、風評被害も多く、心を痛める医療従事者もいた。



地域のケアマネジャー



- ・利用者宅への訪問で万が一、ウイルスを持ち込んでしまわないか心配
- ・情報共有の場が限られてしまう
- ・利用者により、コロナに対する危機意識やとらえ方が異なる。
- ・介護者がコロナ感染した場合のサービス調整
- ・受診控え・介護サービス控えによるADLの低下、家族の抱えこみ、負担感の増大
- ・コロナで経済的に困窮した方がいる



今回抽出された課題を集約し、今後、南圏域全体で「感染症に強い地域を作る」ために何が出来るのか。医療や介護、地域との連携をさらに強化していけるよう、会議を行っていく予定です。また改めてご紹介をさせていただきます。